

米をめぐる状況について



令和5年11月
農林水産省

目 次

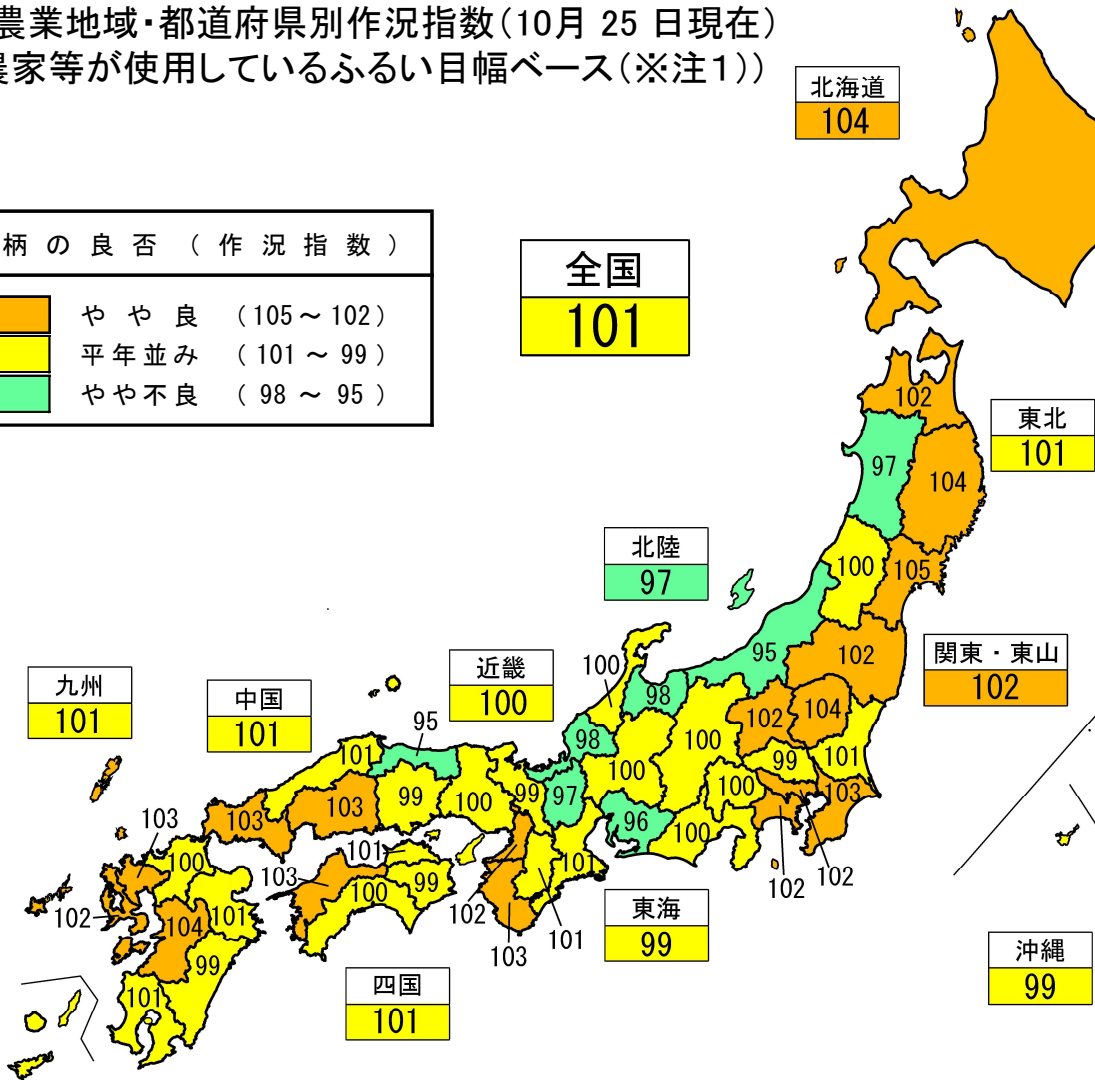
○令和5年産水稻の作付面積及び10月25日現在の予想収穫量	2
○令和5年産の水田における作付状況（令和5年9月30日時点）	3
○今回の基本指針の変更のポイント	6
○米の販売数量及び民間在庫の推移（令和5年9月）	7
○産地別民間在庫の状況（令和5年9月）	8
○相対取引価格の推移（平成25年産～令和5年産）	9
○令和5年産米の相対取引価格（令和5年9月の年産平均価格）	10
○令和3～5年産米のスポット価格の推移（令和5年11月6日時点）	11
○令和5年産水稻うるち玄米農産物検査結果（令和5年9月30日時点）	12
○令和5年産水稻うるち玄米 等級別検査数量（令和5年9月30現在）	13
○高温・渇水の状況と対応について	14
○今般の高温・渇水被害に対する農水省の対応	15

令和5年産水稻の作付面積及び10月25日現在の予想収穫量

- 令和5年産水稻の作付面積（子実用）は134万4,000ha（前年産に比べ1万1,000ha減少）となった。うち主食用作付面積は124万2,000ha（前年産に比べ9,000ha減少）となった。
- 10月25日現在における全国の10a当たり予想収量（1.70mmのふりい目幅ベース）は533kgと見込まれる。
- 主食用作付面積に10a当たり予想収量を乗じた主食用の予想収穫量は661万t（前年産に比べ9万1,000t減少）と見込まれる。
- 農家等が使用しているふりい目幅ベースの全国の作況指数は101となる見込み。

全国農業地域・都道府県別作況指数(10月25日現在)
(農家等が使用しているふりい目幅ベース(※注1))

作柄の良否（作況指数）	
	やや良（105～102）
	平年並み（101～99）
	やや不良（98～95）



注：1 作況指数は、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率であり、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふりい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県の作況指数は早期栽培、普通栽培を合算したものである。また、沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の作況指数の算出は、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平年収量の加重平均を用いた。

令和5年産の水田における作付状況(令和5年9月30日時点)

- ・ 全国の主食用米の作付面積については、前年実績（125.1万ha）から0.9万ha減少（▲0.7%）し、124.2万haとなった。
- ・ 令和5年産で畑地化に取り組む面積は、麦、大豆、飼料作物、そば、なたねのほか、高収益作物等を加えると3.5万haとなる見込み。

【主食用米及び戦略作物等の作付状況】

【主食用米及び戦略作物等の作付状況】

	主食用米	戦略作物等									(万ha)
		加工用米	新規需要米				麦	大豆	飼料作物 そば なたね	戦略作物等 合計面積	備蓄米
			新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 〔稲発酵 粗飼料用稲〕					
H 29年産	137.0	5.2	0.1	0.5	9.2	4.3	9.8	9.0	10.2	48.3	3.5
H 30年産	138.6	5.1	0.4	0.5	8.0	4.3	9.7	8.8	10.2	47.0	2.2
R 元年産	137.9	4.7	0.4	0.5	7.3	4.2	9.7	8.6	10.2	45.6	3.3
R 2 年産	136.6	4.5	0.6	0.6	7.1	4.3	9.8	8.5	10.2	45.6	3.7
R 3 年産	130.3	4.8	0.7	0.8	11.6	4.4	10.2	8.5	10.2	51.2	3.6
R 4 年産	125.1	5.0	0.7	0.8	14.2	4.8	10.6	8.9	9.9	54.9	3.6
R 5 年産	124.2	4.9	0.9	0.8	13.4	5.3	10.5	8.8	8.3	52.8	3.5
畑地化面積	—	—	—	—	—	—	0.4	0.2	1.6	2.2 (3.5)※	—

注1：加工用米及び新規需要米（米粉用米、飼料用米、WCS用稲、新市場開拓用米）は取組計画の認定面積。
注2：備蓄米は、地域農業再生協議会が把握した面積。
注3：麦、大豆、飼料作物、そば、なたねは、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
※R5年産畑地化面積の戦略作物等合計面積欄の3.5万haについては、麦、大豆、飼料作物、そば、なたねのほか、高収益作物等を加えた面積。

令和5年産の水田における作付状況(都道府県別。令和5年9月30日時点)①

都道府県				戦略作物等											(ha)
	主食用米 ①	【参考】		加工用米	新規需要米					麦	大豆	飼料作物	そば	なたね	備蓄米
		前年産 (4年産) ②	増減 ①-②		新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 稲発酵 粗飼料用稲	その他						
全国計	124.2万	125.1万	▲ 0.9万	48,797	9,091	7,587	133,925	53,055	71	104,526	87,973	56,403	25,785	649	35,359
北海道	82,200	82,500	▲ 300	6,920	1,974	143	6,788	1,594	-	33,869	17,865	11,780	6,551	411	2,089
青森	33,800	33,900	▲ 100	787	321	12	7,930	788	-	561	4,801	3,571	1,133	24	5,661
岩手	42,800	43,700	▲ 900	1,283	417	30	5,739	2,396	1	3,491	4,196	6,717	686	17	663
宮城	57,200	57,000	200	626	894	103	9,801	2,757	1	2,186	9,525	5,421	436	0	2,144
秋田	69,900	69,100	800	8,264	500	329	4,265	1,235	2	182	8,701	1,968	3,290	0	3,955
山形	52,400	52,700	▲ 300	4,516	440	112	5,138	1,239	4	73	4,655	2,375	4,337	1	3,484
福島	53,100	51,900	1,200	448	142	12	11,722	1,079	1	333	907	1,598	1,499	84	4,753
茨城	57,800	58,300	▲ 500	947	762	55	13,886	653	3	4,037	776	491	311	1	217
栃木	47,200	46,100	1,100	1,513	70	1,418	15,069	2,177	4	7,442	419	3,046	1,208	6	1,149
群馬	12,400	12,400	0	1,389	0	168	1,661	621	-	2,185	118	173	33	0	-
埼玉	27,500	27,400	100	144	52	769	3,605	124	-	1,877	383	158	50	6	43
千葉	45,800	45,500	300	1,672	35	135	10,154	1,316	-	440	262	312	2	1	122
東京	111	115	▲ 4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	2,850	2,880	▲ 30	-	-	-	13	2	-	4	6	4	0	-	-
新潟	100,600	99,900	700	7,093	1,586	1,784	4,032	533	1	5,210	76	45	474	-	4,559
富山	31,200	31,300	▲ 100	1,220	342	266	2,096	480	-	62	99	31	103	0	2,202
石川	20,800	20,700	100	481	65	371	1,131	127	-	2,542	670	587	2,192	0	1,629
福井	21,500	21,600	▲ 100	322	132	213	1,976	160	-	3,689	359	521	276	6	1,218
山梨	4,660	4,690	▲ 30	62	-	29	21	18	-	189	3,995	294	834	-	-
長野	29,300	29,800	▲ 500	733	245	24	429	265	-	2,834	4,166	323	269	22	257
岐阜	19,700	20,000	▲ 300	741	78	65	3,496	303	-	244	38	40	26	-	94
静岡	15,000	15,000	0	105	1	8	1,011	330	-	1,198	981	27	142	-	4
愛知	24,700	25,200	▲ 500	573	44	278	2,040	182	-	5,646	70	133	7	11	176
三重	24,900	25,200	▲ 300	168	54	95	2,426	303	-	7,050	188	169	19	9	53

※1 主食用米は統計部公表の都道府県別の主食用米面積。

※2 加工用米及び新規需要米は取組計画の認定面積で、備蓄米は地域農業再生協議会が把握した面積。

※3 麦、大豆、飼料作物、そば、なたねは地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積(基幹作)。

※畑地化事業による畑地化した面積は含まない。

令和5年産の水田における作付状況(都道府県別。令和5年9月30日時点)②

都道府県	主食用米			戦略作物等											(ha) 備蓄米
				新規需要米						麦	大豆	飼料作物	そば	なたね	
	加工用米	新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 稲発酵 粗飼料用稲	その他									
①	②	増減 ①－②													
滋賀	27,000	27,700	▲ 700	608	205	58	2,033	310	－	8,222	591	158	110	11	282
京都	13,200	13,400	▲ 200	551	25	10	133	158	－	290	266	47	134	－	－
大阪	4,430	4,540	▲ 110	0	－	5	6	4	－	2	8	1	－	－	－
兵庫	32,500	32,800	▲ 300	674	185	48	819	972	6	1,931	1,658	792	125	12	－
奈良	8,200	8,350	▲ 150	19	－	36	50	43	－	68	22	5	1	0	－
和歌山	5,780	5,980	▲ 200	－	－	1	3	4	－	4	11	3	2	－	－
鳥取	11,700	12,000	▲ 300	25	33	0	821	392	0	68	619	845	330	1	79
島根	15,900	16,100	▲ 200	252	2	7	804	745	1	281	629	487	302	4	26
岡山	26,900	27,100	▲ 200	295	189	120	1,824	475	－	1,269	1,116	911	129	1	152
広島	20,500	21,100	▲ 600	351	44	96	443	708	0	318	226	930	252	0	10
山口	16,000	16,600	▲ 600	976	86	43	1,108	410	0	711	816	864	43	1	－
徳島	9,480	9,640	▲ 160	20	40	11	1,007	247	－	55	7	99	2	－	198
香川	10,100	10,800	▲ 700	48	28	7	195	269	－	1,322	39	210	9	1	－
愛媛	12,800	13,000	▲ 200	34	－	6	344	217	－	430	313	241	2	－	－
高知	10,200	10,600	▲ 400	84	－	18	1,135	321	－	5	54	110	0	－	2
福岡	32,300	32,800	▲ 500	224	12	322	2,475	2,068	－	1,140	7,773	450	43	0	11
佐賀	21,700	22,300	▲ 600	406	8	19	829	2,246	－	1,411	6,241	430	12	2	42
長崎	10,000	10,400	▲ 400	6	10	4	117	1,549	1	78	256	2,053	34	2	－
熊本	28,900	30,200	▲ 1,300	672	41	309	1,646	9,167	24	795	2,238	1,922	179	12	66
大分	18,100	18,800	▲ 700	148	2	13	1,932	2,758	－	693	1,317	948	95	2	19
宮崎	12,700	13,400	▲ 700	1,978	22	22	887	7,207	23	18	207	3,109	62	－	－
鹿児島	15,800	16,600	▲ 800	1,389	1	12	880	4,081	1	75	310	1,985	40	2	－
沖縄	545	604	▲ 59	30	－	2	3	22	－	－	－	20	－	－	－

※1 主食用米は統計部公表の都道府県別の主食用米面積。

※2 加工用米及び新規需要米は取組計画の認定面積で、備蓄米は地域農業再生協議会が把握した面積。

※3 麦、大豆、飼料作物、そば、なたねは地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積(基幹作)。

※畑地化事業による畑地化した面積は含まない。

今回の基本指針の変更のポイント

前回（7月31日）

○ 令和4/5年の主食用米等の需給実績（速報値）

（基本指針の図1「令和4/5年の需要実績」に基づき作成）

令和2年産米のコロナ影響緩和と特別対策（特別枠）を除いた場合の見通し

（単位：万トン）		
令和4年6月末民間在庫量	A	218
令和4年産主食用米等生産量	B	670
令和4/5年主食用米等供給量計	C=A+B	888
令和4/5年主食用米等需要量	D	691
令和5年6月末民間在庫量	E=C-D	197

・在庫量の確定

①

○ 令和5/6年の主食用米等の需給見通し

（単位：万トン）

令和5年6月末民間在庫量	E	197
令和5年産主食用米等生産量	F	669
令和5/6年主食用米等供給量計	G=E+F	866
令和5/6年主食用米等需要量	H	681
令和6年6月末民間在庫量	I=G-H	184

・令和5年9月25日現在の予想収穫量に基づく変更

②

③

・1人当たりの消費量に人口を乗じる手法により推計（最新値に更新）

④

注1：令和5/6年主食用米等需要量は、過去のデータを用いてトレンドで算出した令和5/6年の1人当たり消費量（推計値）に、令和5年の人口（推計値）を乗じて算出した値であり、今後の価格動向等によっては、変動する可能性がある。
注2：欄外の記載は、コロナ影響緩和と特別対策（特別枠）に取り組む令和2年産米を除いた場合の見通しであり、<>書きは特別枠に係る取組数量。
注3：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

今回（10月19日）

○ 令和4/5年の主食用米等の需給実績（確定値）

（基本指針の図1「令和4/5年の需要実績」に基づき作成）

令和2年産米のコロナ影響緩和と特別対策（特別枠）を除いた場合の見通し

（単位：万トン）		
令和4年6月末民間在庫量	A	218
令和4年産主食用米等生産量	B	670
令和4/5年主食用米等供給量計	C=A+B	888
令和4/5年主食用米等需要量	D	691
令和5年6月末民間在庫量	E=C-D	197

○ 令和5/6年の主食用米等の需給見通し

（単位：万トン）

令和5年6月末民間在庫量	E	197
令和5年産主食用米等生産量	F	662
令和5/6年主食用米等供給量計	G=E+F	859
令和5/6年主食用米等需要量	H	682
令和6年6月末民間在庫量	I=G-H	177

○ 令和6/7年の主食用米等の需給見通し

（単位：万トン）

令和6年6月末民間在庫量	I	177
令和6年産主食用米等生産量	J	669
令和6/7年主食用米等供給量計	K=I+J	847
令和6/7年主食用米等需要量	L	671
令和7年6月末民間在庫量	M=K-L	176

・令和5年産の生産量の見通しと同水準の生産量

・1人当たりの消費量に人口を乗じる手法により推計

注1：欄外の記載は、コロナ影響緩和と特別対策（特別枠）に取り組む令和2年産米を除いた場合の見通しであり、<>書きは特別枠に係る取組数量。

注2：上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、SBS方式による輸入米は含まれない。

注3：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

米の販売数量及び民間在庫の推移(令和5年9月)

- 主食用米の需要が1人当たりの消費量や人口減少等の影響により毎年約10万ト(約1.4%)程度減少すると見込まれる中、直近1年間(令和4年1月~12月)の対前年比は、小売事業者向けで▲2%、中食・外食事業者等向けは+4%となっており、販売数量の計では+1%となっている。
- 令和5年9月末現在の全国の民間在庫は、出荷・販売段階の計で199万トンとなっている。前月(8月)の対前年差▲18万トンに対し、9月の対前年差が▲1万トンとなっているが、これは、記録的な高温により収穫時期が早まっている中で、前年より集荷が前倒しされていること等による。

【米穀販売事業者における販売数量の動向(前年同月比)】

	4年1月 ~12月計	5年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
小売事業者向け	98%	100%	101%	98%	101%	107%	100%	102%	104%	103%			
(※令和元年との比較)	(101%)	(104%)	(103%)	(102%)	(101%)	(108%)	(101%)	(99%)	(107%)	(100%)			
中食・外食事業者等向け	104%	103%	107%	103%	102%	106%	104%	107%	106%	105%			
(※令和元年との比較)	(94%)	(93%)	(94%)	(94%)	(95%)	(99%)	(99%)	(97%)	(97%)	(102%)			
販売数量計	101%	101%	104%	100%	101%	107%	102%	104%	105%	104%			
(※令和元年との比較)	(98%)	(99%)	(99%)	(98%)	(98%)	(104%)	(101%)	(98%)	(102%)	(101%)			

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1：報告対象者は、年間玄米仕入数量50,000ト以上の販売事業者(年間取扱数量約150万ト(令和4年産主食用米等の生産量670万トの約2割))である。
注2：上記の数値については、報告対象者が販売している精米の全体の価格・数量の動向を指数化したものであり、個別の取引や産地銘柄毎の動向を表すものではない。
注3：速報値であるため、公表後の数値修正が生じる場合がある。
注4：令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、各月ごとの消費動向に大きな変動が生じていることから、参考として令和元年(4月までは平成31年)の同月との比較をした値を記載。

【購入数量の推移(家計調査)】

(単位：Kg、%)

	4年1月 ~12月計	5年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
米	購入数量	57.38	3.72	4.06	4.25	4.51	4.45	4.23	4.39	4.44	6.06		
	前年比	94.4%	94.2%	98.1%	91.4%	99.3%	101.6%	98.8%	100.9%	102.1%	100.5%		
パン	前年比	98.3%	96.9%	102.8%	93.5%	99.1%	95.2%	100.2%	93.0%	95.7%	101.1%		
めん類	前年比	98.2%	98.0%	87.3%	90.7%	93.1%	95.8%	95.2%	94.1%	101.0%	91.5%		

資料：総務省「家計調査」家計収支編 二人以上の世帯

【民間在庫量の推移(出荷+販売段階)】

(単位：万玄米トン)

		当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
4 / 5 年	出荷+販売段階	142	122	199	313	330	328	306	280	251	219	186	153
	出荷段階	116	98	166	262	277	276	259	236	204	176	149	121
	販売段階	26	25	33	50	52	52	47	44	46	43	36	33
5 / 6 年	出荷+販売段階	123	104	199									
	対前年差	▲20	▲18	▲1									
	出荷段階	95	78	161									
	対前年差	▲21	▲19	▲5									
	販売段階	27	26	37									
	対前年差	+1	+2	+4									

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米(醸造用玄米を含む。)の月末在庫量(玄米換算)の値である。
注2：報告対象者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間の玄米仕入量が500トン以上)、米穀の販売の事業を行う者(年間の玄米仕入量が4,000トン以上)である。
注3：期間については、5/6年であれば、令和5年7月~6年6月である。

産地別民間在庫の状況(令和5年9月)

(単位:千玄米トン)

	4年 8月 ① (千玄米トン)	4年 9月 ② (千玄米トン)	5年 8月 ③ (千玄米トン)	対前年 同月差 ④=③-① (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑤=③/① (%)	5年 9月 ⑥ (千玄米トン)	対前年 同月差 ⑦=⑥-② (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑧=⑥/② (%)
北海道	125.1	198.5	91.0	▲ 34.1	▲ 27.3%	180.6	▲ 17.9	▲ 9.0%
青森	48.9	57.8	46.6	▲ 2.3	▲ 4.7%	105.0	+ 47.2	+ 81.7%
岩手	66.5	58.4	46.2	▲ 20.3	▲ 30.5%	52.4	▲ 6.0	▲ 10.3%
宮城	92.5	109.0	69.7	▲ 22.8	▲ 24.7%	116.5	+ 7.5	+ 6.9%
秋田	79.7	118.8	48.8	▲ 30.9	▲ 38.8%	113.4	▲ 5.4	▲ 4.6%
山形	70.8	81.5	61.0	▲ 9.8	▲ 13.8%	102.8	+ 21.3	+ 26.2%
福島	63.6	63.7	55.9	▲ 7.7	▲ 12.1%	69.4	+ 5.8	+ 9.1%
茨城	54.8	127.8	54.2	▲ 0.5	▲ 1.0%	121.3	▲ 6.5	▲ 5.1%
栃木	82.8	129.1	58.2	▲ 24.6	▲ 29.7%	122.5	▲ 6.6	▲ 5.1%
群馬	10.7	10.0	9.0	▲ 1.7	▲ 15.8%	6.7	▲ 3.3	▲ 33.0%
埼玉	14.2	21.7	13.2	▲ 1.0	▲ 6.9%	20.7	▲ 0.9	▲ 4.3%
千葉	48.6	88.6	51.7	+ 3.1	+ 6.3%	83.1	▲ 5.5	▲ 6.2%
東京	0.0	0.0	0.0	+ 0.0	-	0.0	+ 0.0	-
神奈川	0.5	0.6	0.5	+ 0.0	▲ 5.1%	0.8	+ 0.2	+ 36.3%
山梨	1.3	1.9	1.6	+ 0.3	+ 26.5%	2.8	+ 0.9	+ 44.9%
長野	26.2	35.1	27.0	+ 0.7	+ 2.9%	38.1	+ 3.0	+ 8.5%
静岡	6.0	15.5	6.8	+ 0.8	+ 12.7%	18.2	+ 2.6	+ 17.0%
新潟	55.1	210.0	65.0	+ 9.9	+ 18.0%	238.8	+ 28.8	+ 13.7%
富山	27.0	72.6	28.6	+ 1.6	+ 5.9%	76.9	+ 4.3	+ 5.9%
石川	29.5	71.6	25.6	▲ 3.9	▲ 13.2%	70.5	▲ 1.1	▲ 1.5%
福井	24.0	51.6	20.4	▲ 3.6	▲ 15.1%	45.2	▲ 6.4	▲ 12.3%
岐阜	13.5	13.1	15.4	+ 1.9	+ 14.2%	15.9	+ 2.8	+ 21.6%
愛知	12.8	17.7	11.3	▲ 1.5	▲ 11.8%	18.0	+ 0.3	+ 1.6%
三重	16.9	38.4	15.8	▲ 1.1	▲ 6.5%	38.6	+ 0.2	+ 0.4%

	4年 8月 ① (千玄米トン)	4年 9月 ② (千玄米トン)	5年 8月 ③ (千玄米トン)	対前年 同月差 ④=③-① (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑤=③/① (%)	5年 9月 ⑥ (千玄米トン)	対前年 同月差 ⑦=⑥-② (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑧=⑥/② (%)
滋賀	21.9	64.7	16.8	▲ 5.1	▲ 23.3%	49.6	▲ 15.1	▲ 23.4%
京都	2.2	9.4	2.4	+ 0.1	+ 5.1%	8.2	▲ 1.2	▲ 12.8%
大阪	0.5	0.6	0.6	+ 0.2	+ 34.0%	0.7	+ 0.1	+ 9.0%
兵庫	15.4	31.8	14.2	▲ 1.2	▲ 7.7%	22.0	▲ 9.8	▲ 30.9%
奈良	3.6	3.6	4.7	+ 1.2	+ 33.3%	4.7	+ 1.1	+ 29.0%
和歌山	0.7	1.2	1.1	+ 0.4	+ 50.3%	1.4	+ 0.2	+ 16.7%
鳥取	11.0	15.9	6.3	▲ 4.7	▲ 42.5%	11.1	▲ 4.8	▲ 30.3%
島根	9.4	20.4	9.1	▲ 0.3	▲ 2.9%	18.3	▲ 2.1	▲ 10.3%
岡山	14.0	17.7	13.1	▲ 0.9	▲ 6.7%	15.1	▲ 2.6	▲ 14.8%
広島	14.3	30.8	10.2	▲ 4.1	▲ 28.7%	26.7	▲ 4.0	▲ 13.1%
山口	14.8	24.9	14.5	▲ 0.3	▲ 1.9%	22.7	▲ 2.2	▲ 8.8%
徳島	10.1	15.2	7.8	▲ 2.4	▲ 23.2%	11.8	▲ 3.4	▲ 22.6%
香川	6.9	8.6	4.1	▲ 2.8	▲ 40.5%	5.3	▲ 3.3	▲ 38.1%
愛媛	6.4	9.2	7.4	+ 1.0	+ 15.7%	9.7	+ 0.5	+ 5.8%
高知	10.7	10.0	9.6	▲ 1.1	▲ 10.7%	8.6	▲ 1.4	▲ 14.4%
福岡	22.4	34.1	17.2	▲ 5.3	▲ 23.4%	27.7	▲ 6.4	▲ 18.7%
佐賀	15.3	16.4	12.2	▲ 3.1	▲ 20.2%	11.7	▲ 4.7	▲ 28.9%
長崎	5.1	5.1	3.0	▲ 2.2	▲ 42.2%	2.7	▲ 2.4	▲ 47.6%
熊本	17.9	17.5	12.5	▲ 5.4	▲ 30.1%	12.3	▲ 5.2	▲ 29.6%
大分	8.4	8.5	6.0	▲ 2.4	▲ 28.1%	5.7	▲ 2.9	▲ 33.6%
宮崎	12.5	8.9	7.4	▲ 5.2	▲ 41.2%	4.1	▲ 4.7	▲ 53.5%
鹿児島	14.1	13.0	12.0	▲ 2.1	▲ 15.0%	9.5	▲ 3.5	▲ 26.9%
沖縄	0.5	0.4	0.4	▲ 0.1	▲ 20.0%	0.3	▲ 0.1	▲ 28.9%
全国	122万 ^ト	199万 ^ト	104万 ^ト	▲18万 ^ト	▲ 14.6%	199万 ^ト	▲1万 ^ト	▲ 0.4%

資料:農林水産省「米穀の取引に関する報告」

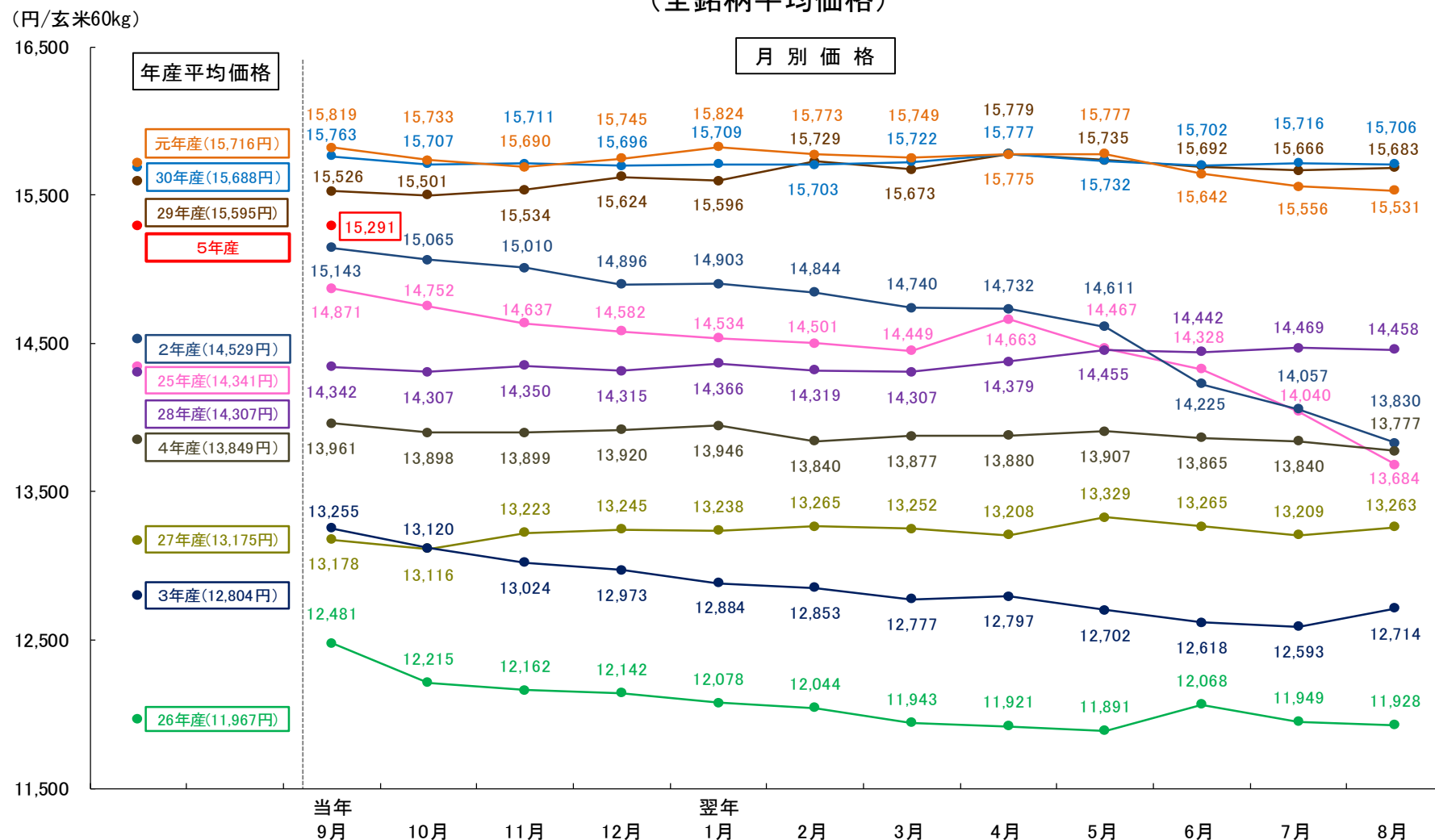
注:1 水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米(醸造用玄米を含む。)の月末在庫量(玄米換算)の値である。

2 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間の玄米仕入量が500トン以上)、米穀の販売の事業を行う者(年間の玄米仕入量が4,000トン以上)である。

相対取引価格の推移(平成25年産～令和5年産)

○ 令和5年産米の令和5年9月の相対取引価格は、全銘柄平均で15,291円/60kgとなり、4年産との年産平均価格差は、前年産の通年平均価格13,849円/60kgより+1,442円/60kgとなっている。

相対取引価格の推移(税込)
(全銘柄平均価格)



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：運賃、包装代、消費税相当額(平成26年3月までは5%、元年9月までは8%、元年10月以降は10%、ただし軽減税率対象は8%)を含む1等米の価格である。

2：グラフ左側の年産平均価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで(4年産は出回り～令和5年9月までの速報値)の通年平均価格、右側は月ごとの価格の推移。

令和5年産米の相対取引価格(令和5年9月の年産平均価格)

(単位：円／玄米60kg (税込))

産地品種銘柄		令和5年産 〔5年9月〕 ①	令和4年産 〔出回り～ 5年9月〕 ②	価格差 ①－②
北海道	ななつぼし	15,336	14,046	+ 1,290
北海道	ゆめひりか	16,890	15,486	+ 1,404
北海道	きらら397	-	13,510	-
青森	まつくら	13,665	12,736	+ 929
青森	つがるロマン	15,003	12,971	+ 2,032
岩手	ひとめぼれ	15,436	13,650	+ 1,786
岩手	あきたこまち	-	13,444	-
岩手	銀河のしずく	15,542	14,120	+ 1,422
宮城	ひとめぼれ	15,073	13,718	+ 1,355
宮城	つや姫	15,923	14,344	+ 1,579
宮城	ササニシキ	15,618	14,111	+ 1,507
秋田	あきたこまち	15,274	13,862	+ 1,412
秋田	ひとめぼれ	14,003	13,042	+ 961
秋田	めんこいな	-	12,815	-
山形	はえぬき	14,225	12,986	+ 1,239
山形	つや姫	18,761	18,504	+ 257
山形	雪若丸	15,661	14,025	+ 1,636
福島	コシヒカリ (中通り)	-	12,740	-
福島	コシヒカリ (会津)	15,308	14,622	+ 686
福島	コシヒカリ (浜通り)	-	13,016	-
福島	ひとめぼれ	14,285	12,550	+ 1,735
福島	天のつぶ	-	12,290	-
茨城	コシヒカリ	15,258	13,154	+ 2,104
茨城	あきたこまち	14,209	12,296	+ 1,913
茨城	ふくまる	14,524	12,450	+ 2,074
栃木	コシヒカリ	14,709	13,326	+ 1,383
栃木	とちぎの星	-	12,309	-
栃木	あさひの夢	-	12,103	-
群馬	あさひの夢	-	12,730	-
群馬	ゆめまつり	-	12,589	-
埼玉	彩のかがやき	-	12,728	-
埼玉	彩のきずな	-	12,815	-
埼玉	コシヒカリ	-	13,283	-
千葉	コシヒカリ	14,677	12,618	+ 2,059
千葉	ふさこがね	13,838	11,336	+ 2,502
千葉	ふさおとめ	14,056	11,409	+ 2,647
山梨	コシヒカリ	-	17,706	-
長野	コシヒカリ	15,942	14,934	+ 1,008
長野	あきたこまち	15,062	14,129	+ 933
静岡	コシヒカリ	15,343	14,838	+ 505

産地品種銘柄		令和5年産 〔5年9月〕 ①	令和4年産 〔出回り～ 5年9月〕 ②	価格差 ①－②
静岡	きぬむすめ	-	12,846	-
静岡	にこまる	-	-	-
新潟	コシヒカリ (一般)	16,983	16,556	+ 427
新潟	コシヒカリ (魚沼)	20,929	21,019	▲ 90
新潟	コシヒカリ (佐渡)	17,337	17,041	+ 296
新潟	コシヒカリ (岩船)	17,114	16,920	+ 194
新潟	こしいぶき	14,696	13,306	+ 1,390
富山	コシヒカリ	16,347	14,946	+ 1,401
富山	てんたかく	15,238	13,332	+ 1,906
石川	コシヒカリ	15,804	14,356	+ 1,448
石川	ゆめみづほ	14,436	12,972	+ 1,464
福井	コシヒカリ	15,228	14,160	+ 1,068
福井	ハナエチゼン	13,711	12,474	+ 1,237
福井	あきさかり	14,033	12,744	+ 1,289
岐阜	ハツシモ	-	13,654	-
岐阜	コシヒカリ	16,034	14,964	+ 1,070
岐阜	ほしじるし	-	13,476	-
愛知	あいちのかおり	-	13,005	-
愛知	コシヒカリ	-	13,741	-
愛知	大地の風	-	12,854	-
三重	コシヒカリ (一般)	14,974	13,199	+ 1,775
三重	コシヒカリ (伊賀)	15,111	13,673	+ 1,438
三重	キヌヒカリ	13,513	12,059	+ 1,454
滋賀	コシヒカリ	15,213	13,941	+ 1,272
滋賀	キヌヒカリ	13,969	12,346	+ 1,623
滋賀	みずかがみ	14,853	13,485	+ 1,368
京都	コシヒカリ	15,371	14,403	+ 968
京都	ヒノヒカリ	-	15,036	-
京都	キヌヒカリ	13,995	12,838	+ 1,157
兵庫	コシヒカリ	17,118	14,790	+ 2,328
兵庫	ヒノヒカリ	-	12,538	-
兵庫	キヌヒカリ	13,641	12,443	+ 1,198
奈良	ヒノヒカリ	-	12,980	-
鳥取	きぬむすめ	14,409	12,687	+ 1,722
鳥取	コシヒカリ	14,921	13,431	+ 1,490
鳥取	ひとめぼれ	14,285	12,817	+ 1,468
島根	きぬむすめ	14,080	13,104	+ 976
島根	コシヒカリ	14,916	14,021	+ 895
島根	つや姫	14,920	13,897	+ 1,023
岡山	アケボノ	-	10,991	-

産地品種銘柄		令和5年産 〔5年9月〕 ①	令和4年産 〔出回り～ 5年9月〕 ②	価格差 ①－②
岡山	きぬむすめ	13,716	12,107	+ 1,609
岡山	コシヒカリ	14,015	12,990	+ 1,025
広島	コシヒカリ	14,563	13,466	+ 1,097
広島	あきさかり	13,613	12,332	+ 1,281
広島	あきろまん	-	12,550	-
山口	コシヒカリ	14,827	14,049	+ 778
山口	ひとめぼれ	14,167	13,081	+ 1,086
山口	きぬむすめ	-	-	-
徳島	コシヒカリ	-	12,961	-
徳島	あきさかり	13,489	11,621	+ 1,868
香川	コシヒカリ	15,325	14,213	+ 1,112
香川	ヒノヒカリ	-	13,457	-
香川	あきさかり	-	-	-
愛媛	コシヒカリ	14,234	13,182	+ 1,052
愛媛	ヒノヒカリ	13,563	12,535	+ 1,028
愛媛	あきたこまち	13,481	12,479	+ 1,002
高知	コシヒカリ	15,146	13,494	+ 1,652
高知	ヒノヒカリ	-	12,522	-
福岡	夢つくし	15,633	14,494	+ 1,139
福岡	ヒノヒカリ	14,794	13,252	+ 1,542
福岡	元気つくし	15,648	14,446	+ 1,202
佐賀	さがびより	-	14,059	-
佐賀	夢しずく	-	13,546	-
佐賀	ヒノヒカリ	-	12,502	-
長崎	にこまる	-	12,940	-
長崎	なつほのか	-	12,690	-
長崎	ヒノヒカリ	-	12,594	-
熊本	ヒノヒカリ	-	12,835	-
熊本	森のくまさん	-	12,507	-
熊本	コシヒカリ	14,858	13,782	+ 1,076
大分	ヒノヒカリ	14,416	13,212	+ 1,204
大分	ひとめぼれ	15,082	13,195	+ 1,887
大分	つや姫	15,182	13,769	+ 1,413
宮崎	コシヒカリ	-	13,815	-
宮崎	ヒノヒカリ	-	14,276	-
鹿児島	ヒノヒカリ	-	13,873	-
鹿児島	あきほなみ	-	14,479	-
鹿児島	コシヒカリ	15,062	14,172	+ 890
全銘柄平均価格		15,291	13,849	+ 1,442

注1：農林水産省が調査・公表した出回りからの年産平均価格(令和4年産は出回りから5年9月までの速報値、令和5年産は5年9月の速報値)であり、調査対象事業者は、一定規模以上の集荷業者(年間の販売数量5,000トン以上等)。

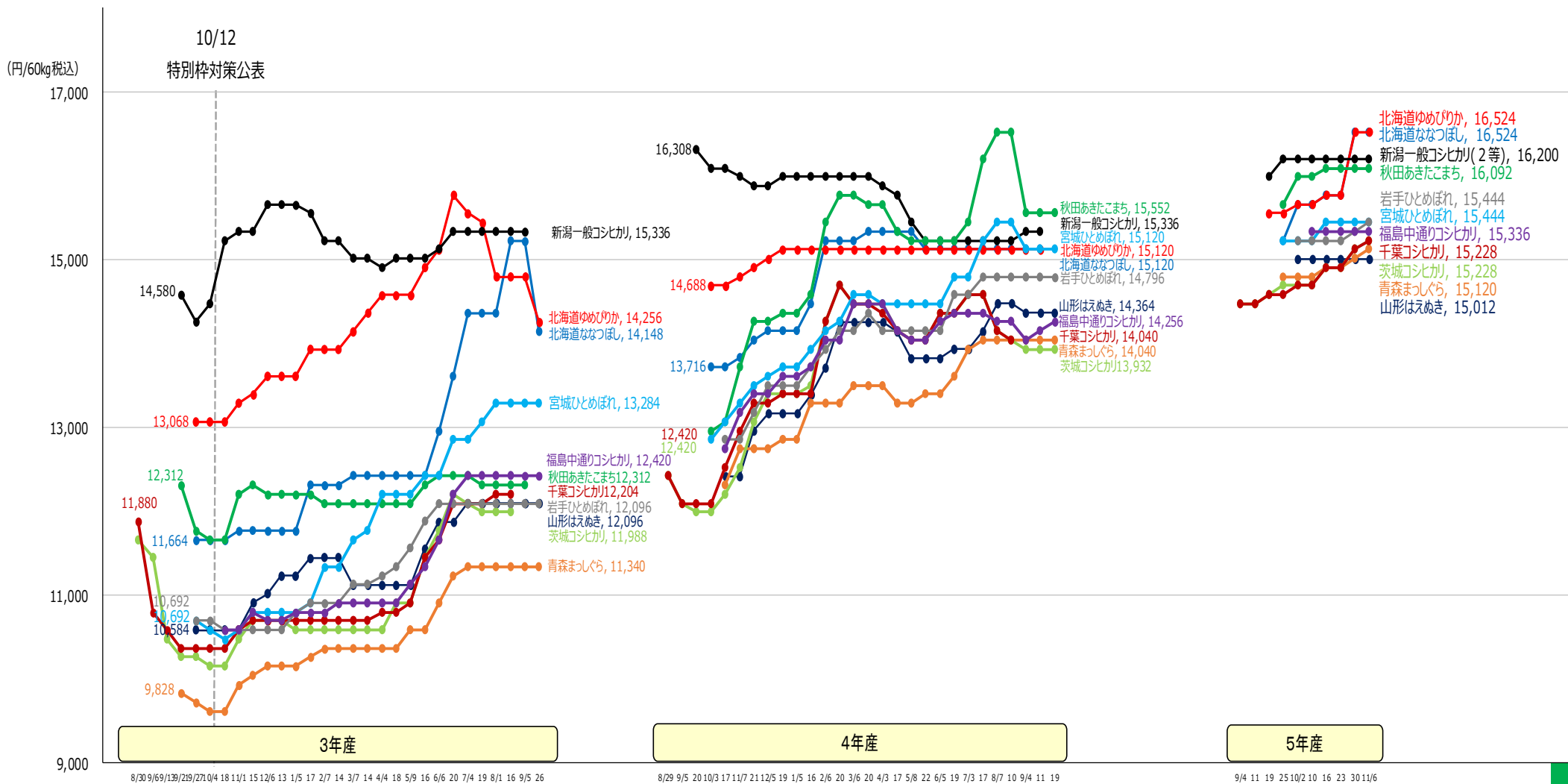
2：運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格である。なお、価格に含む消費税は、軽減税率の対象である米穀の包装代などの品代等は8%、運賃等は10%で算定している。

3：「-」については、当該年産において報告対象としていない産地品種銘柄又は取引数量の累計が100トン未満であり、公表を行っていないもの。

(参考) 令和3～5年産米のスポット価格の推移(令和5年11月6日時点)

- 令和3年産のスポット価格については、2年産の出来秋に比べ低い水準でスタートしたが、その後回復基調で推移。
- 令和4年産のスポット価格については、比較的安価な銘柄を中心に上昇傾向で推移。
- 令和5年産のスポット価格については、4年産の出来秋に比べ高い水準でスタート。

(参考) スポット取引：主に中小規模の卸売業者間で行う、10トン～数十トン程度の小ロットの売買。



注:スポット価格は、米穀データバンク発行「日刊・米穀市況速報」(関東相場、東京着地基準、下限値、税抜)の価格を農林水産省が税込に加工。

令和5年産水稻うるち玄米農産物検査結果（令和5年9月30日時点）

- 令和5年産米の検査数量は、9月末現在189万トン（前年同期158万トン）。前年の検査数量421万トンと比較して44.9%の進捗率。
- 高温・渇水の影響による白未熟粒の発生等により1等比率は全国で59.6%（前年同期75.8%より16.2%低下）。
- 一方で、高温耐性品種の検査等級は、1及び2等の比率はおおむね9割以上。

【全国の検査結果に占める1等比率】（％）

	5年産	4年産	3年産	2年産	元年産
8月末現在	68.9	68.0	76.1	74.3	67.8
9月末現在	59.6	75.8	82.6	80.7	67.6
最終	－	78.5	83.1	79.8	73.2

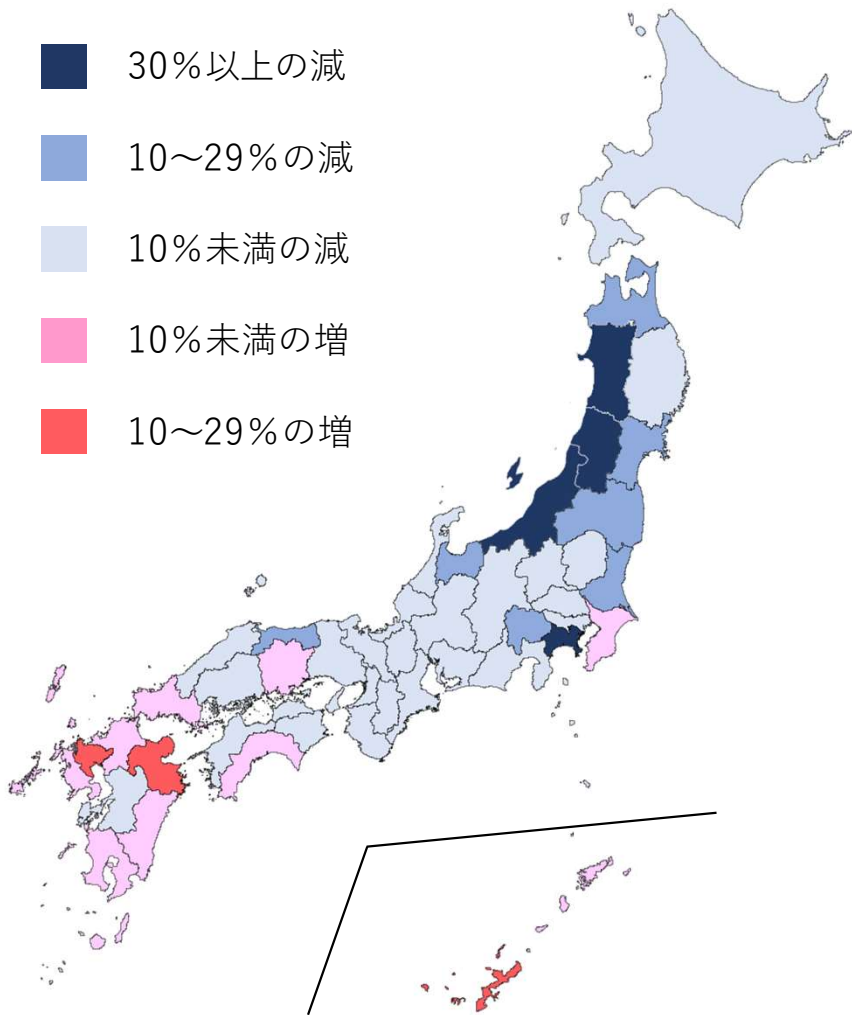
※元年産～3年産の最終は確定値、4年産の最終は令和5年3月31日現在の速報値

【N県における品種別検査結果】

品種名	高温耐性	検査数量 (トン)	等級別比率(％)			
			1等	2等	3等	規格外
コシヒカリ	なし	189,711	3.6	42.7	50.9	2.9
			46.3			
こしいぶき	あり	64,996	15.9	73.9	9.8	0.4
			89.8			
ゆきん子舞	あり	19,237	56.8	38.3	4.3	0.6
			95.1			
新之助	あり	10,223	97.3	2.5	0.2	0.1
			99.8			
にじのきらめき	あり	1,460	26.0	65.1	8.5	0.3
			91.1			

※四捨五入の関係で合計値が一致しないことがある

【1等比率の前年同期比較】



令和5年産水稻うるち玄米 等級別検査数量（令和5年9月30現在）

	等 級 比 率				1 等 比 率	
	1 等	2 等	3 等	規 格 外	前年同期	5力年平均 (H30-R4)
北 海 道	86.4	9.3	1.7	2.5	93.6	89.9
青 森	68.9	29.8	1.2	0.0	92.2	92.8
岩 手	92.5	6.9	0.4	0.1	96.8	96.0
宮 城	84.0	15.2	0.7	0.1	97.4	88.1
秋 田	62.6	33.8	3.1	0.5	92.6	89.6
山 形	54.7	43.8	1.4	0.1	96.4	94.2
福 島	76.2	22.7	1.0	0.1	95.3	92.9
茨 城	57.1	38.1	4.5	0.3	67.6	80.1
栃 木	88.1	11.3	0.6	0.1	94.3	93.4
群 馬	64.1	29.4	6.4	0.1	69.1	89.1
埼 玉	32.1	44.2	22.7	1.0	37.8	65.8
千 葉	88.3	10.7	0.8	0.2	86.8	88.6
東 京	—	—	—	—	—	—
神 奈 川	16.8	75.5	7.6	0.1	60.8	37.6
山 梨	80.7	19.1	0.3	—	91.7	83.7
長 野	95.6	3.9	0.4	0.0	98.4	96.1
静 岡	80.4	16.1	3.3	0.3	85.4	80.4
新 潟	13.5	48.8	35.5	2.2	74.4	68.0
富 山	56.8	36.7	6.4	0.1	85.7	89.2
石 川	79.6	18.8	1.4	0.2	81.5	87.3
福 井	85.0	11.1	2.0	1.9	89.5	85.4
岐 阜	42.9	51.9	4.0	1.2	47.9	58.7
愛 知	20.8	53.8	24.6	0.8	29.0	54.8
三 重	31.6	64.4	3.7	0.3	40.0	36.4

	等 級 比 率				1 等 比 率	
	1 等	2 等	3 等	規 格 外	前年同期	5力年平均 (H30-R4)
滋 賀	57.4	40.3	2.2	0.1	65.2	66.4
京 都	62.7	31.0	5.6	0.7	69.2	65.8
大 阪	20.7	61.5	15.3	2.4	26.0	47.3
兵 庫	30.3	59.2	10.1	0.5	33.5	54.3
奈 良	78.8	18.1	2.8	0.3	85.9	89.2
和 歌 山	13.5	67.2	18.0	1.3	14.4	28.9
鳥 取	36.3	59.2	4.3	0.1	49.4	53.8
島 根	52.6	36.2	9.9	1.2	60.4	67.8
岡 山	76.7	20.1	2.4	0.8	73.3	67.9
広 島	86.6	12.4	1.0	0.1	87.7	84.9
山 口	78.8	19.5	1.5	0.3	76.1	73.4
徳 島	42.1	50.5	6.6	0.9	45.9	42.9
香 川	8.5	83.3	8.0	0.3	9.5	23.5
愛 媛	40.7	54.8	3.4	1.1	46.8	40.2
高 知	20.9	67.2	10.2	1.7	16.0	18.1
福 岡	11.0	81.7	6.2	1.2	8.6	22.1
佐 賀	76.0	21.5	0.9	1.6	61.0	46.0
長 崎	45.0	51.4	3.2	0.4	40.0	34.2
熊 本	29.3	57.9	11.2	1.6	29.8	29.5
大 分	64.4	30.5	3.7	1.4	54.2	51.4
宮 崎	61.7	24.3	10.5	3.5	60.4	48.3
鹿 児 島	37.6	50.6	10.4	1.4	27.9	41.0
沖 縄	58.3	30.9	7.4	3.4	43.6	51.2
全 国	59.6	31.1	8.4	0.9	75.8	79.0

注 1) ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。
2) 「0」は単位に満たないもの、「-」は事実がないものを示している。
3) 「5力年平均」は、平成30年産から令和4年産の平均値。平成30年～令和3年産は確定値、令和4年産は令和5年3月31日現在の速報値を使用。

高温・渇水の状況と対応について

- 令和5年は、梅雨明け以降、北・東日本を中心に記録的な高温で推移。
- このため、出穂期以降の高温による白未熟粒の発生などが懸念された各県においては、品質低下を防ぐための追肥や水管理・適期収穫等の対応を強化。加えて、一部地域では少雨による渇水のため、番水(※)や消雪用井戸の活用等も実施。
- 地球温暖化に伴い高温傾向が続くことが見込まれることから、高温耐性品種の拡大を進める必要。

※番水：用水の受益地区をいくつかに分け、区分した地区ごと、または圃場ごとに順番と時間を決めて、数日ごとに配水する方法。

【高温・渇水による農作物への影響】

・米：白未熟粒の発生



・トマト：裂果の発生



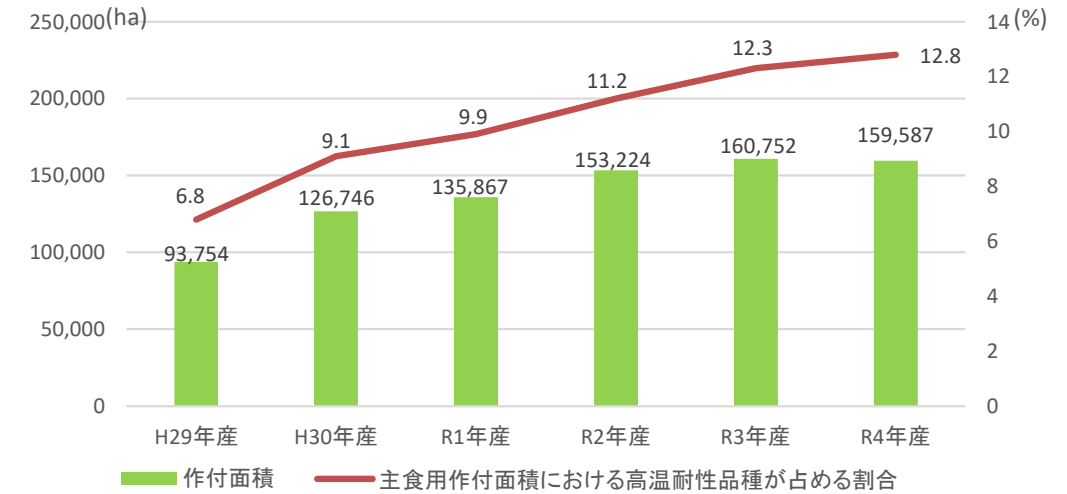
・リンゴ：日焼け果の発生



【高温・渇水への対策】

- ・高温耐性品種の導入
- ・土づくり、追肥、水管理、適期収穫等の高温対策技術の実施
- ・番水、消雪用井戸の活用、排水の反復利用等の渇水対策技術の実施

○米の高温耐性品種の作付状況



品種名	作付面積 (令和4年産)	作付けの多い 上位3都道府県	品種名	作付面積 (令和4年産)	作付けの多い 上位3都道府県
きぬむすめ	22,656ha	島根、岡山、鳥取	さがびより	6,060ha	佐賀
こしいぶき	19,600ha	新潟	ゆきん子舞	5,200ha	新潟
つや姫	17,303ha	山形、宮城、島根	ふさおとめ	4,800ha	千葉
ふさこがね	11,900ha	千葉	なつほのか	4,058ha	長崎、大分、鹿児島
あきさかり	7,658ha	広島、徳島、福井	新之助	4,000ha	新潟
にこまる	7,495ha	長崎、愛媛、岡山	雪若丸	4,000ha	山形
とちぎの星	7,200ha	栃木	てんたかく	3,802ha	富山
彩のきずな	6,500ha	埼玉	その他	21,185ha	
元気つくし	6,170ha	福岡	計	159,587ha	

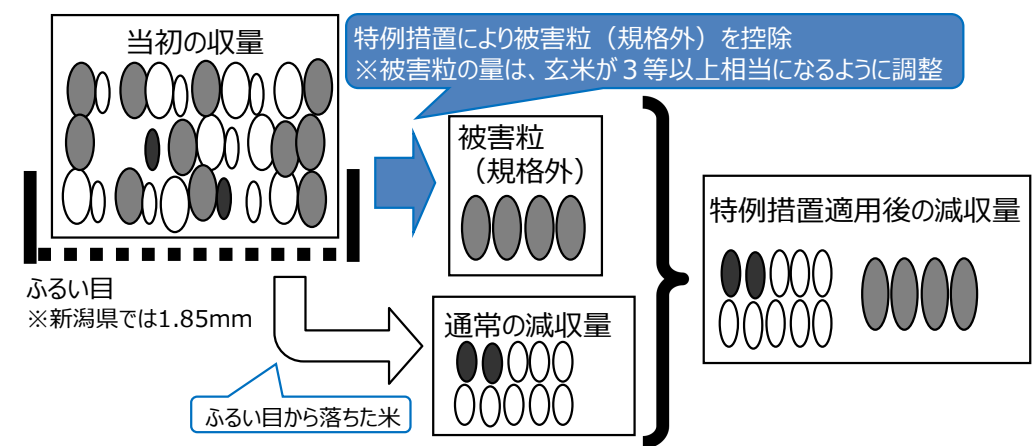
出典：農林水産省「地球温暖化影響調査レポート」
※1 高温耐性品種とは、高温にあっても玄米品質や収量が低下しにくい品種で、地球温暖化による影響に適応することを目的として導入された面積について、都道府県から報告があったものを取りまとめたもの。
※2 作付面積には推計値も含まれる。

今般の高温・渇水被害に対する農水省の対応①

- 水稻共済では、品質低下による規格外の被害粒も減収量に含める特例措置が存在。また、収入保険では令和6年加入者より気象災害特例を措置し、災害等で収入が減少した年でも基準収入の8割まで補正。
- 高温による農作物の影響軽減のため、地域の実情や品目に応じた高温耐性品種や高温対策栽培技術の導入実証等を支援。

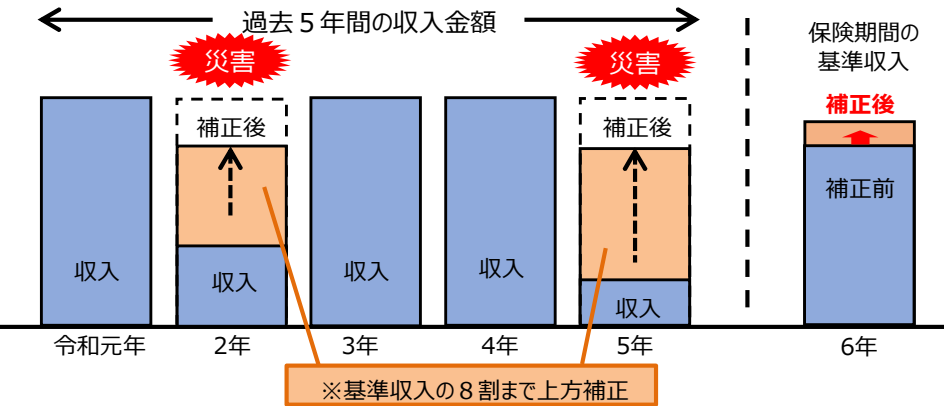
【農業保険による支援】

- 水稻共済の損害評価の特例措置（農業共済組合からの申請による）
 - ・ 品質低下による規格外の被害粒も減収量に含める



○ 収入保険に係る気象災害特例

- ・ 令和6年加入者より気象災害特例を措置し、災害等で収入が減少した年でも基準収入の8割まで補正



【高温対策栽培体系への転換等】

○ 高温対策栽培体系への転換支援：3億円【R5補正】

- ・ 高温耐性品種への転換や栽培技術の導入実証にかかる物財費を支援（1/2以内）
〔例：実証圃の借上げ、種子・苗、遮光ネット等の生産資材、土壌分析、堆肥施用による土づくり、生産物の分析・調査等〕



○ 産地生産基盤パワーアップ事業：310億円の内数【R5補正】

- ・ 高温対策に必要となる機械・設備の導入や堆肥施用による土づくりの実証等を支援（1/2以内、定額）



○ 農業競争力強化基盤整備事業等：460億円の内数【R5補正】

- ・ 揚水機場、貯水池整備等（1/2等）



○ 災害復旧事業：397億円の内数【R5補正】

- ・ 渇水等により深刻な水田のひび割れが発生した場合に、復旧を支援（1/2等）

今般の高温・渇水被害に対する農水省の対応②

- 今夏の高温・渇水の影響を受け、白未熟粒が多発し、米の農産物検査における1等比率が低下している地域も発生。
- 農産物検査の等級は、精米する際の歩留まりの目安であり、おいしさの格付けではない。
- 白未熟粒は、精米過程で除去される場合が多いが、乳白色になった粒が多いお米についても、早炊きモードの使用や水加減を少なくすることなどによりおいしく炊けることを農水省公式YouTubeチャンネル「BUZZ MAFF（バズマフ）」「maffchannel（マフチャンネル）」にて情報発信。

【BUZZMAFF】

- ・猛暑による影響とおいしく食べる方法について、農水省職員が出演した60秒程度のショート動画を作成
- ・早炊きモードの使用や通常よりも水を少なめにして炊くと、乳白色の粒が多い米もおいしく食べられることを情報発信（11/14(火)11時時点 再生回数8,696）

【maffchannel】

- ・米の食味の専門家の大坪研一教授、お米マイスターの澁谷梨絵さんにも出演いただき、4分程度の動画を作成
- ・米の検査等級はおいしさの格付けではないことについて説明（11/14(火)11時時点 再生回数2,670）



新潟薬科大学
大坪研一教授



五ツ星お米マイスター
澁谷梨絵さん



～今年の猛暑とお米の食べ方について～

今年の新米は、猛暑で乳白色になっているものもあります。

皆さんが目にするお米は精米されているので

気にならないかもしれませんが、

もし、買われたお米が、「いつもより少し白いかな？」

というときは、この動画を参考にしてください。

（参考）【JA系統の取組】

- ・JA全農が石川佳純さんを迎え、「新米試食会イベント」を開催
 - ・令和5年産の新米を試食して食レポするほか、猛暑の影響を受けたお米について、専門家が炊き方などを紹介
- 日時：11/15(水)11時～12時
- 場所：アグベンチャーラボ（東京都千代田区大手町1-6-1）